

第2回 人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査

ID、パスワードをご入力ください。

ID:

パスワード:

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。

回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。

JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】

Chrome 最新版

Firefox 最新版

Microsoft Edge 最新版

【MacOS】

Chrome 最新版

Firefox 最新版

Safari 最新版

【Android】

標準ブラウザ（Chrome） 最新版

【iOS】

標準ブラウザ（Safari） 最新版

Chrome 最新版

次へ

----- <改ページ> -----

Q1 以下のなかから、所属学会を選択してください。（複数回答可）

☐ アメリカ学会

☐ 日本社会心理学会

☐ 沖縄女性研究者の会

☐ 一般社団法人 日本社会福祉学会

☐ 科学技術社会論学会

☐ 日本社会文学会

☐ 科学基礎論学会

☐ 日本宗教学会

☐ 化学史学会

☐ 日本人口学会

■ 関西社会学会	■ 公益社団法人 日本心理学会
■ 九州西洋史学会	■ 日本スポーツとジェンダー学会
■ 共生学会	■ 日本政治学会
■ 京都民科歴史部会	■ 日本西洋古典学会
■ 経済理論学会	■ 日本ソーシャルワーク学会
■ 国際ジェンダー学会	■ 日本村落研究学会
■ 国際服飾学会	■ 一般社団法人 日本体育・スポーツ・健康学会
■ ジェンダー史学会	■ 日本中東学会
■ ジェンダー法学会	■ 日本哲学会
■ 信濃史学会	■ 一般社団法人 日本認知・行動療法学会
■ 社会言語科学会	■ 日本認知心理学会
■ 一般社団法人 社会情報学会	■ 日本年金学会
■ 心理科学研究会	■ 日本農村生活学会
■ 総合女性史学会	■ 一般社団法人 日本発達心理学会
■ 東南アジア学会	■ 日本犯罪社会学会
■ 日本アメリカ史学会	■ 日本フェミニスト経済学会
■ 日本アメリカ文学会	■ 一般社団法人 日本文化人類学会
■ 日本医学哲学・倫理学会	■ 日本法社会学会
■ 日本英語学会	■ 日本法哲学会
■ 日本教育学会	■ 日本保健医療社会学会
■ 日本教育行政学会	■ 一般社団法人 日本民俗学会
■ 日本教育社会学会	■ 日本倫理学会
■ 一般社団法人 日本教育心理学会	■ 日本労働法学会
■ 日本基督教学会	■ 日本労務学会
■ 日本経営学会	■ 広島史学研究会
■ 日本経済学会	■ 文化史学会

☐ 日本言語学会	☐ 法と心理学会
☐ 一般社団法人 日本健康心理学会	☐ 歴史学研究会
☐ 日本語学会	☐ 日本マレーシア学会
☐ 日本ジェンダー学会	☐ 日本情報教育学会
☐ 日本社会学会	☐ 東洋史研究会
☐ 日本社会教育学会	☐ その他 ()

-----<改ページ>-----

Q1.1 Q1で回答された学会のうち、あなたのご自身の研究の中心として活動されている学会は、以下のどの分野にあたりますか。1つをお答えください。

☐ 言語
☐ 文学
☐ 哲学
☐ 心理学
☐ 教育学
☐ 社会学
☐ 史学
☐ 地域研究
☐ 法学
☐ 政治学
☐ 経済学
☐ 経営学
☐ その他 ()
☐ ジェンダー関係

-----<改ページ>-----

Q2 あなたの現在の身分は以下のうちのどれに当てはまりますか。複数ある場合には、ご自身がメインだと思われるもの1つをお答えください。

(1)大学・短大・高専の場合（学生を除く）：

- ☐ 研究員（有給・学振PD・RPD含む）
- ☐ 研究員（無給）
- ☐ 技術員
- ☐ 助手
- ☐ 助教
- ☐ 専任講師
- ☐ 准教授
- ☐ 教授
- ☐ 理事
- ☐ 研究支援職（URA、コーディネーター、教務職員など）
- ☐ 非常勤講師
- ☐ 専門職員（カウンセラーなど）
- ☐ その他職員（）

(2) (1)以外の教育機関・保育機関の場合（学生を除く）：

- ☐ 教頭・副校長
- ☐ 校長・園長
- ☐ それ以外の教員・保育士
- ☐ 非常勤講師
- ☐ 専門職員（カウンセラーなど）
- ☐ 事務職員
- ☐ その他（）

(3)学生の場合：

- ☐ 準学士課程生
- ☐ 専攻科生
- ☐ 学部生

☐ 大学院生(修士課程)

☐ 大学院生(博士課程)

☐ 研究生

☐ その他 ()

(4)企業の場合：

☐ 一般社員

☐ 主任および同等職

☐ 課長および同等職

☐ 部長および同等職

☐ 事業部長および同等職

☐ 取締役および同等職以上

☐ その他 ()

(5)研究機関等の場合：

☐ 研究員（有給・学振PD・RPD含む）

☐ 研究員（無給）

☐ 技術員

☐ 主任研究員

☐ グループ長

☐ ユニット長

☐ 理事

☐ 専門職員（カウンセラーなど）

☐ その他 ()

(6)上記以外の場合：

☐ その他 ()

☐ どこにも所属していない

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『44.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q3 あなたがメインと考える所属先の設置主体を教えてください。

☐ 国立

☐ 公立

☐ 私立

☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『13.その他職員（』 いずれかを選択した方のみ

Q4A あなたの所属先の学生定員（1学年）を以下の中からお答えください。（機関全体についてお答えください。）

☐ 1～99人

☐ 100～499人

☐ 500～999人

☐ 1000～4999人

☐ 5000～9999人

☐ 10000人以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『35.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『43.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q4B あなたの所属先の従業員規模（正規職員数）をお答えください。（機関全体についてお答えください。）

☐ 9人以下

☐ 10～29人

☐ 30～99人

☐ 100～299人

☐ 300～999人

☐ 1000人以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『13.その他職員（』 いずれかを選択した方のみ

Q5A あなたの所属先の組織の専門分野をお答えください。所属が大学の場合は学部をお答えください。

☐ 人文科学	☐ 商船
☐ 法学・政治学	☐ 家政
☐ 経済学・経営学	☐ 教育
☐ 社会学	☐ 芸術
☐ 理学	☐ 心理
☐ 工学	☐ 教養
☐ 農学	☐ 国際関係
☐ 医学	☐ 人間関係
☐ 保健	☐ その他（ ）

あなたの所属先の名称をお答えください。（答えたくない場合には、次の設問に進んでください。）

大学名

学部名

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『35.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『43.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q5B あなたの所属先の組織の専門分野をお答えください。所属が研究機関の場合には、分野をお答えください。

☐ 情報
☐ 環境
☐ 総合
☐ 人文科学
☐ 社会科学

☐ 数学・物理学

☐ 化学

☐ 工学

☐ 生物学

☐ 農学

☐ 医学・歯学

☐ 保健

☐ その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『14.教頭・副校長』～『20.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q5C あなたの所属先の学校の学校段階をお答えください。

☐ 幼稚園・認定こども園・保育園

☐ 小学校

☐ 中学校

☐ 高等学校

☐ 特別支援学校

☐ 専修学校

☐ 各種学校

☐ その他 ()

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『20.その他（』、『28.一般社員』～『44.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q6 あなたの現在の雇用形態および任期の有無についてお答えください。

☐ 常勤（常勤的非常勤を含む）

☐ 非常勤

Q6.1 あなたの雇用契約等の期間（任期）は以下のどれにあたりますか。

☐ 任期なし

☐ 任期付き（再任、あるいは任期なしへの移行可能性含む）

☐ 任期付き（任期なしへの移行可能性なし）

Q6.2 あなたの勤務形態は以下のどちらにあたりますか。

☐ フルタイム勤務

☐ パートタイム勤務

-----<改ページ>-----

Q7 あなたが研究に携わってきた年数をお答えください。研究のスタートは学部修了後とし、研究に携わっていない期間は除いてください。

※学生で学部をまだ修了していない方は「0」と入力してください。

年

Q8 あなたのこれまでの研究年数のうち、任期・契約期間の定めのない研究職についていた年数をお答えください。

年

-----<改ページ>-----

Q9 所属学会のジェンダー平等に関わる取り組みや施策について伺います。主に参加している学会1つについてご回答ください。

	わからない	実施されていない	全く機能していない	あまり機能していない	一定程度機能している	かなり有効に機能している
シンポジスト・座長・オーガナイザー等の女性増加	→	☐	☐	☐	☐	☐
女性に限定した賞の設立など	→	☐	☐	☐	☐	☐
共同研究への女性研究者の参加促進	→	☐	☐	☐	☐	☐

女性研究者ネットワークの形成	→	●	●	●	●	●	●
女性リーダー養成研修等の機会提供	→	●	●	●	●	●	●
ジェンダーをテーマとした研究の積極的推進	→	●	●	●	●	●	●
女性役員の増加促進	→	●	●	●	●	●	●

-----<改ページ>-----

Q10 あなたが、教員として、今学期に担当されている授業のコマ（1回90分程度）数はどれくらいですか。具体的な数値でお答えください。

※大学院生の方で、ご自身が在学している大学で授業を担当している場合は、担当授業コマ数を「所属大学」の部分に入力してください。在学していない大学で授業を担当している場合は、担当授業コマ数を「他大学での非常勤」のところに入力してください。

※大学に所属していない方で、大学で授業を担当している場合は、担当授業コマ数を「他大学での非常勤」のところに入力してください。

※教員として担当する授業がないところには「0」と入力してください。

	所属大学の学部				
	講義	演習・ゼミ 論文指導	実験・実習 実技	所属大学の 大学院	他大学での 非常勤
	↓	↓	↓	↓	↓
一週間当たりのコマ数	コマ	コマ	コマ	コマ	コマ

-----<改ページ>-----

Q11_1 あなたのふだんの生活（長期休暇期間を除く）について、時間配分はどのようになっていますか。一週間当たりの状況をお答えください。日常的に時間を割いていないものについては「0」とお答えください。

※それぞれ0.5時間単位（30分単位）で入力してください。

	一週間当たりの時間（現状）
	↓
ア) 研究	時間
イ) 教育	時間
ウ) 組織運営	時間
エ) 社会貢献...学会関連	時間

オ) 社会貢献...行政庁や企業、学校等との活動（助言・共同研究等）

時間

カ) 社会貢献...一般向けの活動（講演会や公開講座、カウンセラー等）

時間

-----<改ページ>-----

Q11_2 では、Q11_1で回答した時間配分について、それぞれあなたはどのように感じていますか。

多くて不満
多くてやや不満
ちょうどよい／とくに何も思わない
少なくてやや不満
少なくて不満

ア) 研究	→	●	●	●	●	●
イ) 教育	→	●	●	●	●	●
ウ) 組織運営	→	●	●	●	●	●
エ) 社会貢献...学会関連	→	●	●	●	●	●
オ) 社会貢献...行政庁や企業、学校等との活動（助言・共同研究等）	→	●	●	●	●	●
カ) 社会貢献...一般向けの活動（講演会や公開講座、カウンセラー等）	→	●	●	●	●	●

-----<改ページ>-----

Q12 同僚と比べたとき、次の仕事があなたに回ってくることは多いと思いますか。それぞれについてお答えください。

多い
やや多い
あまり多くはない
多くはない／担当していない

ア) 所属組織の理事や代表、〇〇長など、基幹的業務	→	●	●	●	●
イ) 所属組織が行う対外的な説明に関わる業務	→	●	●	●	●
ウ) 所属組織における補助的・支援的な業務	→	●	●	●	●

工) 所属組織以外から依頼される外部委員・メンバー → ● ● ● ●

---- <改ページ> -----

Q13 あなたは次の活動に携わっているとき、どの程度「やりがい」を感じていますか。担当していない場合は「担当していない」を選んでください。

		まったく感じていない	あまり感じていない	やや感じている	とても感じている	担当していない
ア) 研究	→	●	●	●	●	●
イ) 教育	→	●	●	●	●	●
ウ) 組織運営	→	●	●	●	●	●
エ) 社会貢献...学会関連	→	●	●	●	●	●
オ) 社会貢献...行政庁や企業、学校等との活動 (助言・共同研究等)	→	●	●	●	●	●
カ) 社会貢献...一般向けの活動(講演会や公開 講座、カウンセラー等)	→	●	●	●	●	●

---- <改ページ> -----

Q14 あなたが「研究業界の関係者になることを選んだとき」についてお聞きます。日常的な生活において、ご自身の時間のどの程度を研究にあてるのが理想だと考えていましたか。一週間あたりの時間数でお答えください。

一週間あたり () 時間ほど研究にあてるのが理想的だと考えていた

---- <改ページ> -----

Q15 あなたが「研究業界の関係者になることを選んだとき」の状況について、もっとも近いものを1つ選んでください。

非常にあてはまる
ややあてはまる
あまりあてはまらない
まったくあてはまらない

- ア) 専門分野の第一線で活躍する研究者になりたいと考えていた → ☐ ☐ ☐ ☐
- イ) 国際的に活躍する研究者になりたいと考えていた → ☐ ☐ ☐ ☐
- ウ) やるからには、他の研究者には負けない業績を出したいと考えていた → ☐ ☐ ☐ ☐
- エ) マイペースで研究に取り組みたいと考えていた → ☐ ☐ ☐ ☐
- オ) 研究以外の仕事（教育等）がメインであり、研究には適宜関わろうと考えていた → ☐ ☐ ☐ ☐
- カ) どのような研究者になりたいか（どのように研究に携わりたいか）深く考えていなかった → ☐ ☐ ☐ ☐

-----<改ページ>-----

Q16 所属先のジェンダー比について伺います。ご自身がメインと考える所属先の学部や部署など、把握しやすい範囲についてご回答ください。

※該当する職員等がないものについては「該当しない」を選んでください。

- | | | 男性が多い | 女性が多い | 男女同程度 | わからない | 該当しない |
|---------------------------------------|---|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 常勤研究職・教員のジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 非常勤の研究職・教員のジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 研究職・教員の役職者のジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 課長職以上の事務職スタッフのジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 課長職未満の事務職スタッフのジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| (大学院生・ポスドクがいる組織の場合のみ)大学院生・ポスドクのジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 新規採用の研究職・教員のジェンダー比 | → | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |

-----<改ページ>-----

Q17 所属先では、女性研究者や女性教員の新規採用目標値は設定されていますか。ご自身がメインと考える所属先の学部や部署など、把握しやすい範囲についてご回答ください。

☐ 設定されている

☐ 設定されていない

☐ わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q17で『1.設定されている』 いずれかを選択した方のみ

Q17_1 設定されている場合、その数値目標は公表されていますか。

- ☐ はい
- ☐ いいえ
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q17で『2.設定されていない』 いずれかを選択した方のみ

Q17_2 設定されていない場合、数値目標を定めるべきですか。

- ☐ はい
- ☐ いいえ
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

Q18 第5次男女共同参画基本計画および第6期科学技術基本計画において、人文社会科学系の女性研究者の新規採用目標値が初めて明記されました（2025年までに理学系：20%、工学系：15%、農学系：30%、医歯薬学系：30%、人文科学系：45%、社会科学系：30%）。このことについて伺います。

この数値目標を

- ☐ よく知っている
- ☐ ある程度知っている
- ☐ 知らない

Q18続き

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

数値目標を設定した取り組みは

- ☐ 推進するべきである
- ☐ あまり意義がない

● 弊害がある

● わからない

● その他 ()

-----<改ページ>-----

Q19 あなたが研究活動や実践活動を主に行っている組織（所属先や学会など）において、以下に示すような考え方を、（直接言われたり聞いたりしたか否かにかかわらず）言動や態度からそのように感じたことがあるかどうか、についてお答えください。

	あると思う	どちらかと言えばあると思う	どちらかと言えないと思う	ないと思う
組織のリーダーは男性の方が向いている	→ ●	●	●	●
事務作業などの簡単な仕事は女性がすべきだ	→ ●	●	●	●
育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない	→ ●	●	●	●
男性は出産休暇／育児休業を取るべきでない	→ ●	●	●	●
仕事より育児を優先する男性は仕事へのやる気が低い	→ ●	●	●	●
男性なら残業や休日出勤をするのは当たり前だ	→ ●	●	●	●
同程度の能力なら、まず男性から昇進させたり管理職に登用するものだ	→ ●	●	●	●
家事・育児は女性がすべきだ	→ ●	●	●	●
男性は仕事をして家計を支えるべきだ	→ ●	●	●	●
共働きでも男性は家庭よりも仕事を優先するべきだ	→ ●	●	●	●

-----<改ページ>-----

Q20 あなたにとって、ロールモデル、メンターと言えるような人がいる（いた）か否かについてお答えください。なお、ここで「メンター」とは、仕事や人生に効果的なアドバイスをする助言者、相談者の役割を担う人を指します。

いない（過去も）
今はいない
いる

		過去にいた	いなかった
ロールモデル（研究などの仕事の内容面）	→	●	●
ロールモデル（私生活を含めたキャリア面）	→	●	●
メンター（研究などの仕事の内容面）	→	●	●
メンター（私生活を含めたキャリア面）	→	●	●

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『20.その他（』、『28.一般社員』～『44.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q21 所属先のジェンダー平等に関わる取り組みや施策について伺います。学部や部署など、把握しやすい範囲についてご回答ください。

		かなり有効に機能している	一定程度機能している	あまり機能していない	全く機能していない	実施されていない	わからない
女性の積極的採用	→	●	●	●	●	●	●
女性が少ない職務や役職への女性の積極的配置	→	●	●	●	●	●	●
ジェンダー平等を呼びかける啓発	→	●	●	●	●	●	●
女性に対するメンターなどの助言者の配置・委嘱 （「メンター」とは、仕事や人生に効果的なアドバイスをする助言者、相談者の役割を担う人を指す）	→	●	●	●	●	●	●
フレックスタイム制度	→	●	●	●	●	●	●
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ	→	●	●	●	●	●	●
所定外労働（残業）を免除する制度	→	●	●	●	●	●	●
事業所内託児施設の運営	→	●	●	●	●	●	●
子育てサービス費用の援助措置など（ベビーシッター費用など）	→	●	●	●	●	●	●
在宅勤務制度	→	●	●	●	●	●	●
育児・介護休業後の職場復帰支援策（復帰をスムーズにするためのセミナーの開催など）	→	●	●	●	●	●	●
		かな	一定	あま	全く	実施	わか

		り有効に機能している	程度機能している	り機能していない	機能していない	されていない	らない
配偶者が出産の時の男性の休暇制度	→	●	●	●	●	●	●
転勤免除（地域限定社員制度など）	→	●	●	●	●	●	●
有給の育児・介護・看護休暇制度	→	●	●	●	●	●	●
男性の育児・介護休業取得の促進	→	●	●	●	●	●	●
業績評価におけるライフイベント等の考慮	→	●	●	●	●	●	●
ライフイベント時の研究以外の業務負担軽減	→	●	●	●	●	●	●
ジェンダー差のない公平な人事評価	→	●	●	●	●	●	●
ジェンダー差のない公平な昇進	→	●	●	●	●	●	●
ジェンダー差のない能力ある者の要職への配置	→	●	●	●	●	●	●
セクシュアル／ジェンダー／マタニティ・ハラスメント対策	→	●	●	●	●	●	●
		かなり有効に機能している	一定程度機能している	あまり機能していない	全く機能していない	実施されていない	わからない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q2で『1.研究員（有給・学振PD・RPD含む）』～『20.その他（』、『28.一般社員』～『44.その他（』 いずれかを選択した方のみ

Q22 大学における学部長や企業における部長などの役職経験のない方にお伺いいたします。いずれ、学部長以上や部長以上の役職に就く意思はありますか。

☐ すでに役職の経験がある

☐ 役職に就く機会があれば、引き受ける

☐ 役職を打診されても、引き受けたくない → その理由（ ）

-----<改ページ>-----

Q23 あなたはジェンダー平等実現のために以下の項目がどの程度重要と考えますか。

		かなり重要である	やや重要である	あまり重要でない	全く重要でない
雇用や昇進などの機会がジェンダー間で平等である	→	☐	☐	☐	☐
役職・職域毎におけるジェンダー比率の偏りを解消する	→	☐	☐	☐	☐
ジェンダーにかかわらず個々人の能力が正しく評価されている	→	☐	☐	☐	☐
ジェンダーにかかわらず個々人の努力が正しく評価されている	→	☐	☐	☐	☐
ジェンダーにかかわらず個々人の業績が正しく評価されている	→	☐	☐	☐	☐
ジェンダーにかかわらず同一価値労働に同一賃金が与えられている	→	☐	☐	☐	☐
ジェンダーにかかわらず仕事をする当事者の意思が尊重されている	→	☐	☐	☐	☐
家庭責任（育児・介護・扶養など）による負担を考慮にいたった評価がされている	→	☐	☐	☐	☐
客観性や透明性の確保された公正な人事評価に基づき、仕事の割り当てや昇進が決められている	→	☐	☐	☐	☐
多様な特性や能力を活かすという視点で評価されている	→	☐	☐	☐	☐

-----<改ページ>-----

Q24 主に参加している学会（専門とする学会全体）の現状をみて、ジェンダー平等が達成されていると思いますか。

- ☐ おおむね達成されている
- ☐ ある程度は達成されている
- ☐ あまり達成されていない
- ☐ ほとんど達成されていない
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

Q25 勤務先（所属先）の組織・機関の現状をみて、ジェンダー平等が達成されていると思いますか。

- ☐ おおむね達成されている
- ☐ ある程度は達成されている
- ☐ あまり達成されていない
- ☐ ほとんど達成されていない
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

Q26 今年度、ご自身で使用できる研究費をお答えください。（複数回答可）

- ☐ 所属機関からの研究費
- ☐ 科学研究費補助金（科研費）
- ☐ その他公的競争資金
- ☐ 民間研究資金
- ☐ 私費
- ☐ その他の研究費
- ☐ 研究費はない

-----<改ページ>-----

Q26_1 所属機関から毎年度支給される基盤的な研究費の額をお答えください。

なお、ここでの研究費は、大学や学部、企業や研究機関などの所属機関から毎年度支給され、ご自身が使用できる個人研究費など基盤的な研究費の総額を指します。年度により変動がある場合は、直近の3年度の平均的な額をお答えください。

- | | |
|---|------------------------------|
| ☐ 所属機関からの基盤的な研究費はない | ☐ 80万円台 |
| ☐ 10万円未満 | ☐ 90万円台 |
| ☐ 10万円台 | ☐ 100万円台 |
| ☐ 20万円台 | ☐ 110万円台 |
| ☐ 30万円台 | ☐ 120万円台 |

☐ 40万円台	☐ 130万円台
☐ 50万円台	☐ 140万円台
☐ 60万円台	☐ 150万円台以上
☐ 70万円台	

-----<改ページ>-----

Q27 現在、科学研究費の申請が可能ですか。

☐ 申請できる（すでに申請し、採択されている状況を含みます）
☐ 申請できない（研究者番号を取得する条件を満たしていない）
☐ 申請できない（研究者番号は持っているが、科研費申請を受け入れる所属機関がないため、申請できない）
☐ 申請できない（研究者番号を取得する条件を満たしているが、所属先が研究者番号を取得させてくれない）
☐ 申請できない（上記以外のその他の理由： ）

-----<改ページ>-----

Q28 ご自身の研究を進める上で、あなたの以下の環境や機会はどの程度、充足している、あるいは不足しているとお考えですか。

		充足している	どちらかといえば充足している	どちらかといえば不足している	不足している	わからない	該当しない
安定した職	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
研究時間	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
研究費の金額（私費の研究費ではなく、所属機関からの研究費や科研費、公的・民間機関からの研究費についてお答えください）	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
研究補助者の有無	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐
共同研究者の有無	→	☐	☐	☐	☐	☐	☐

研究以外の業務の効率化や分業	→	●	●	●	●	●	●	●
成果の発表の機会	→	●	●	●	●	●	●	●
研究休暇	→	●	●	●	●	●	●	●
所属機関・上司・指導教員等の研究への理解	→	●	●	●	●	●	●	●
指導教員・シニア教員・上司等からの指導	→	●	●	●	●	●	●	●
研究グループ内での意思統一・コミュニケーション	→	●	●	●	●	●	●	●
業績や能力の適切な評価	→	●	●	●	●	●	●	●
所属機関の子育て支援・介護支援	→	●	●	●	●	●	●	●
学会による子育て中・介護中の研究者への支援	→	●	●	●	●	●	●	●
		充足している	どちらかといえば充足している	どちらでもない	どちらかといえば不足している	不足している	わからない	該当しない

-----<改ページ>-----

Q29 あなたのこれまでの研究活動において、ご自身が女性（男性の場合は男性）であるということで、以下のような不利をお感じになりましたか。

		非常に不利を感じた	やや不利を感じた	どちらでもない	あまり不利を感じなかった	全く不利を感じなかった	わからない	該当しない
家族（親）の理解を得られなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
家族（パートナー）の理解を得られなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
研究の継続について指導教員の理解を得られなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
指導教員の指導を受けにくかった	→	●	●	●	●	●	●	●
指導教員が男性(女性)の就職により力をいれていた	→	●	●	●	●	●	●	●
多数をしめる男性(女性)のネットワークに入れなかった	→	●	●	●	●	●	●	●

研究会に関する情報を得られなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
夜に行われる研究会や学会のセッションに参加できなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
同性のロールモデルがいなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
		非常に不利を感じた	やや不利を感じた	どちらでもない	あまり不利を感じなかった	全く不利を感じなかった	わからない	該当しない
セクシャル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなどのハラスメントの被害にあった	→	●	●	●	●	●	●	●
研究のための調査・実験を実施する上で不利があった	→	●	●	●	●	●	●	●
家事、育児、介護のために、研究時間がとれなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
家事、育児、介護のために、学会、研究会、調査や資料収集などの出張に行きにくかった	→	●	●	●	●	●	●	●
家事、育児、介護のために、修士論文・博士論文などの完成が遅れた	→	●	●	●	●	●	●	●
就職に関する情報を得られなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
就職する地域を限定しなければいけなかった	→	●	●	●	●	●	●	●
退職・失職した	→	●	●	●	●	●	●	●
部署を異動した	→	●	●	●	●	●	●	●
		非常に不利を感じた	やや不利を感じた	どちらでもない	あまり不利を感じなかった	全く不利を感じなかった	わからない	該当しない

-----<改ページ>-----

Q30 あなたは、過去3年間に、以下に示した研究活動をどのくらいされましたか。1)から13)の各項目について、それぞれ当てはまるおおよその数値を選択してください。

以下の学術書・論文・発表などは全て、単著だけではなく共著を含んだ数でお答えください。

1) あなたが執筆あるいは共著した学術書（冊）

選択して下さい ▼

- | | |
|---|-----------|
| 2) あなたが編集あるいは共編した学術書（冊） | 選択して下さい ▼ |
| 3) あなたが翻訳あるいは共訳した学術書（冊） | 選択して下さい ▼ |
| 4) 学術書あるいは学術雑誌に発表した論文（篇） | 選択して下さい ▼ |
| 内、査読付き論文数（篇） | 選択して下さい ▼ |
| 5) 研究費援助を受けた研究報告あるいはモノグラフ（冊） | 選択して下さい ▼ |
| 6) 教育実践に関する報告（篇） | 選択して下さい ▼ |
| 7) 新聞・一般雑誌・WEBへの専門的記事（篇） | 選択して下さい ▼ |
| 8) 公演会や展示会などの芸術活動（回） | 選択して下さい ▼ |
| 9) ビデオや映画の制作（回） | 選択して下さい ▼ |
| 10) 学会大会での口頭発表あるいはポスター発表（回） | 選択して下さい ▼ |
| オンラインではなく現地での参加（回） | 選択して下さい ▼ |
| オンラインでの参加（回） | 選択して下さい ▼ |
| オンラインではなく現地での参加（回） | 選択して下さい ▼ |
| オンラインでの参加（回） | 選択して下さい ▼ |
| 13) その他あれば記入してください <input type="text"/> | 選択して下さい ▼ |

-----<改ページ>-----

Q31 あなたの2023年1月1日時点での年齢をお答えください。

	歳
----------------------	---

-----<改ページ>-----

Q32 あなたの性別は次のうちどれにあたりますか。あなたのお考えでお答えください。

☐ 男性

☐ 女性

☐ 決めていない

☐ 答えたくない

-----<改ページ>-----

Q33 あなたの最終学歴をお答えください。

- ☐ 学部卒業まで（在籍中を含む）
- ☐ 修士課程在籍中
- ☐ 修士課程中退
- ☐ 修士課程修了
- ☐ 博士課程在籍中
- ☐ 博士課程中退
- ☐ 博士課程修了（博士号取得）
- ☐ 博士課程満期退学

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q33で『5.博士課程在籍中』～『8.博士課程満期退学』 いずれかを選択した方のみ

Q33_1 あなたの博士課程（博士課程後期）のころの指導教員の性別を教えてください。現在、博士課程に在籍中の方は、その指導教員についてお答えください。複数の博士課程に在席した方や、途中で指導教員が変わった方は、最後の指導教員についてお答えください。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ わからない

-----<改ページ>-----

Q34 あなたは、博士学位を取得していますか。

- ☐ 取得していない
- ☐ 取得している（課程博士）
- ☐ 取得している（論文博士）

- 取得している（課程・論文の両方）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q34で『2.取得している（課程博士）』～『4.取得している（課程・論文の両方）』 いずれかを選択した方のみ

Q34_1 取得した大学は以下のいずれですか。

● 国内：国公立

● 国内：私立

● 国内：その他（）

● 国外

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q34で『2.取得している（課程博士）』～『4.取得している（課程・論文の両方）』 いずれかを選択した方のみ

Q34_2 博士学位取得した年をお答えください。

西暦 年

-----<改ページ>-----

Q35 あなたは、これまでに以下のような奨学金等に応募・採択されましたか。以下のものについて、あてはまるものを選んでください。

	応募しなかった	応募したが採択されなかった	採択された
日本学生支援機構の奨学金	→ ●	●	●
民間の奨学金	→ ●	●	●
大学からの奨学金	→ ●	●	●
日本学術振興会のDC	→ ●	●	●

日本学術振興会のPD → ● ● ●

日本学術振興会のRPD → ● ● ●

-----<改ページ>-----

Q36 あなたご自身の昨年度の年収（税込み）をお答えください。

☐ 年収なし	☐ 800万円台
☐ 100万未満	☐ 900万円台
☐ 100万円台	☐ 1000万円台
☐ 200万円台	☐ 1100万円台
☐ 300万円台	☐ 1200万円台
☐ 400万円台	☐ 1300万円台
☐ 500万円台	☐ 1400万円台
☐ 600万円台	☐ 1500万円台以上
☐ 700万円台	

-----<改ページ>-----

Q37 現在いっしょに住んでいる方を、次の中からすべてあげてください。

☐ 一人暮らし	☐ あなたの兄弟姉妹
☐ あなたの夫・妻 (事実婚・内縁も含む)	☐ 配偶者の兄弟姉妹 (具体的に)
☐ あなたの子ども	☐ あなたの子どもの夫・妻
☐ あなたの父	☐ あなたの孫
☐ あなたの母	☐ その他の親族の方 (具体的に)
☐ 配偶者の父	☐ 親族以外の方 (具体的に)
☐ 配偶者の母	
☐ あなたの祖父母	
☐ 配偶者の祖父母	

-----<改ページ>-----

Q38 あなたには、現在、配偶者（事実婚等のパートナーを含む）がいますか。

- ☐ いる
- ☐ いない（離別・死別した）
- ☐ いない（結婚したことはない、事実婚等をしたことはない）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q38で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q38_1 配偶者（事実婚等のパートナーを含む）の方は、現在、収入をとまなう仕事についていますか。

- ☐ ついている
- ☐ ついているが休職中
- ☐ 今はついていないが、過去についていた
- ☐ 仕事についたことはない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q38_1で『1.ついている』 いずれかを選択した方のみ

Q39 配偶者の職業についてお知らせください。

- ☐ 大学・研究機関等の研究教育職（常勤・任期なし）
- ☐ 大学・研究機関等の研究教育職（常勤・任期あり）
- ☐ 大学・研究機関等の非常勤講師・非常勤研究員
- ☐ 経営者、役員
- ☐ 大学・研究機関等以外の法人や団体にて常時雇用されている一般従業者（民間企業、公務員を含む）
- ☐ 臨時雇い・パート・アルバイト
- ☐ 派遣社員・契約社員・嘱託社員

- ☐ 自営業主、自由業者
- ☐ 自営業の家族従業者
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q38で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q40 配偶者の昨年度の年収（税込み）をお答えください。

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| ☐ 年収なし | ☐ 800万円台 |
| ☐ 100万未満 | ☐ 900万円台 |
| ☐ 100万円台 | ☐ 1000万円台 |
| ☐ 200万円台 | ☐ 1100万円台 |
| ☐ 300万円台 | ☐ 1200万円台 |
| ☐ 400万円台 | ☐ 1300万円台 |
| ☐ 500万円台 | ☐ 1400万円台 |
| ☐ 600万円台 | ☐ 1500万円台以上 |
| ☐ 700万円台 | ☐ わからない |

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q38で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q41 結婚している方またはパートナーのいる方に伺います。あなたは結婚（事実婚を含む）後どちらの姓を名乗って（通称使用して）いますか。

- ☐ 戸籍上は夫婦同姓で、二人とも夫の旧姓を名乗っている
- ☐ 戸籍上は夫婦同姓で、二人とも妻の旧姓を名乗っている
- ☐ 戸籍を変えず夫婦が別の姓を名乗っている
- ☐ 戸籍上は夫婦同姓であるが、それぞれが旧姓を名乗っている
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q41で『4.戸籍上は夫婦同姓であるが、それぞれが旧姓を名乗っている』 いずれかを選択した方のみ

Q41_1 「戸籍上は夫婦同姓であるが、それぞれが旧姓を名乗っている」方に伺います。あなたが名乗っている旧姓は、戸籍の姓と一致していますか。一致していませんか。

- ☐ 名乗っている旧姓は、戸籍の姓と一致している
- ☐ 名乗っている旧姓は、戸籍の姓と一致していない

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q41_1で『2.名乗っている旧姓は、戸籍の姓と一致していない』 いずれかを選択した方のみ

Q41_2 戸籍上は夫婦同姓であるが、戸籍の姓と異なる旧姓を名乗っている方に伺います。旧姓を使用している中で、不便・不利益を感じた場面があれば教えてください。（複数回答可）

- ☐ 職場等の所属先で旧姓の通称使用が認められないことがある
- ☐ 職場等で旧姓使用可能だが、周囲の理解が得られない
- ☐ 銀行口座等の手続で旧姓が使用できない
- ☐ 不便・不利益を感じたことはない
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

Q42 選択的夫婦別姓が議論されていますが、あなたはどのように思いますか。

- ☐ 結婚するなら戸籍上も生活上も夫婦が同じ姓を名乗るのがよい
- ☐ 結婚するなら戸籍上は同姓にして、必要に応じて旧姓（通称）を名乗るのがよい
- ☐ 結婚しても同姓か別姓かを選べる選択的夫婦別姓がよい

-----<改ページ>-----

Q43 婚姻・離婚等で姓が変わると、研究にどんな影響があると思いますか。（あるいは、研究にどんな影響を感じたことがありますか。）（複数回答可）

- ☐ 研究実績（論文・研究成果等）が引き継がれない
- ☐ 在外研究・国際会議の参加に際しての各種手続等に面倒が生じる
- ☐ 研究に関する特許・補助金等の申請に面倒が生じる
- ☐ 影響はない
- ☐ わからない
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q38で『1.いる』 いずれかを選択した方のみ

Q44 あなた自身または配偶者（事実婚等のパートナーを含む）の職（勉学を含む）の都合により別居をした経験はありますか。

- ☒ あり
- ☐ なし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q44で『1.あり』 いずれかを選択した方のみ

Q44.1 配偶者（事実婚等のパートナーを含む）との別居の経験がある方に伺います。現在の状況について教えてください。（複数回答可）

- ☐ あなたの異動や転職によって同居するようになった
- ☐ 配偶者（事実婚を含む）の異動や転職によって同居するようになった
- ☐ あなたの離職によって同居するようになった
- ☐ 配偶者（事実婚を含む）の離職によって同居するようになった
- ☐ 現在も別居中である（週に何日かは同居している）
- ☐ 現在も別居中である（同居する日は月に4日より少ない）
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

Q45 あなたのお子さまについてお答えください。
現在、あなたにお子さまはいらっしゃいますか。

☐ あり

☐ なし

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q45で『1.あり』 いずれかを選択した方のみ

Q45_1 あなたのお子さまは何人いらっしゃいますか。

現在の子どもの数は： 人

-----<改ページ>-----

Q45_2 あなたのお子さまの人数に合わせて各年齢（回答時）をお知らせください。

第1子 歳

第2子 歳

第3子 歳

第4子 歳

第5子 歳

第6子 歳

第7子 歳

第8子 歳

第9子 歳

第10子 歳

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q45で『1.あり』 いずれかを選択した方のみ

Q45_3 第一子についてお聞きます。就学前の平日昼間、小学生期の夏休みの平日昼間の世話を主に担当したのは誰ですか。また、宿泊を伴う学会参加や出張時の世話を主に担当したのは誰ですか。

※そのような機会がなかった（まだない）場合は「該当しない」を選んでください。

小学校に入学する前の平日昼間

☐ あなた自身

☐ 配偶者

☐ 同居している親族

☐ 同居していない親族

☐ 知人

☐ 保育園等

☐ ベビーシッター

☐ 家政婦

☐ ファミリーサポート

☐ その他（）

☐ 該当しない

続き

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

小学生期の夏休みの平日昼間

☐ あなた自身

☐ 配偶者

☐ 同居している親族

☐ 同居していない親族

☐ 知人

☐ 学童保育等

☐ シッター

☐ 塾・習い事等

☐ 子どもだけで留守番

☐ その他（）

☐ 該当しない

続き

【この設問文はモニター回答時には画面に表示されません】

宿泊を伴う学会参加や出張時

☐ あなた自身

☐ 配偶者

☐ 同居している親族

☐ 同居していない親族

☐ 知人

☐ 自分で依頼した保育サービス

☐ 学会が用意した保育サービス

☐ 子どもだけで留守番

☐ その他 ()

☐ 該当しない

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

Q45で『1.あり』 いずれかを選択した方のみ

Q45_4 あなたは第1子の誕生に際して育児休業を取得しましたか。（産前・産後休暇を除く）

※第1子誕生の際、雇用されていなかった方（退職した方を含む）は「該当しない」を選んでください。

☐ 取得した

☐ 取得したかったが、しなかった

☐ 取得するつもりがなく、しなかった

☐ 利用できる育児休業制度がなかった

☐ 該当しない

----- <改ページ> -----

【回答者条件】

Q45_4で『1.取得した』 いずれかを選択した方のみ

Q45_5 取得した期間はどれくらいでしたか。

- ☐ 1か月未満
- ☐ 1か月以上～3か月未満
- ☐ 3か月以上～6か月未満
- ☐ 6か月以上～12か月未満
- ☐ 12か月以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q45_4で『1.取得した』 いずれかを選択した方のみ

Q45_6 第1子の出産および休業後の状況についてお答えください。

- ☐ 休業前と同じ職務を継続（ほぼ同様の仕事量）
- ☐ 休業前と同じ職務を継続（仕事量増）
- ☐ 休業前と同じ職務を継続（仕事量減）
- ☐ 自分の希望で職務を変えた
- ☐ 自分の希望で部署を変えた
- ☐ 職場の指示により職務が変わった
- ☐ 職場の指示により部署が変わった
- ☐ 失職した
- ☐ 退職した
- ☐ その他（ ）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q45で『1.あり』 いずれかを選択した方のみ

Q46 子どもをもったことは、あなたの研究や教育、その他の業務に関する次の項目について、良い影響が大きかったとお感じですか、それとも悪い影響が大きかったとお感じですか。

良 い 影	や や 良	ど ち ら	や や 悪	悪 い 影	わ か ら	該 当 し
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------

		響 が 大 き か つ た	い 影 響 が 大 き か つ た	で も な い	い 影 響 が 大 き か つ た	響 が 大 き か つ た	な い	な い
研究時間の量	→	●	●	●	●	●	●	●
限られた時間の有効活用	→	●	●	●	●	●	●	●
研究に対する集中力	→	●	●	●	●	●	●	●
長期的スパンでの研究計画の立案	→	●	●	●	●	●	●	●
突発的な状況変更への対応力	→	●	●	●	●	●	●	●
研究チームに対するマネジメント能力	→	●	●	●	●	●	●	●
新しい研究テーマの発見・着想・深化	→	●	●	●	●	●	●	●
研究者のネットワークへの参加	→	●	●	●	●	●	●	●
育児中の他の研究者とのネットワークの構築	→	●	●	●	●	●	●	●
学会や研究会などの国内外への出張への行きやすさ	→	●	●	●	●	●	●	●
		良 い 影 響 が 大 き か つ た	や や 良 い 影 響 が 大 き か つ た	ど ち ら で も な い	や や 悪 い 影 響 が 大 き か つ た	悪 い 影 響 が 大 き か つ た	わ か ら な い	該 当 し な い
調査や資料収集などの国内外への出張への行きやすさ	→	●	●	●	●	●	●	●
夜に行われる研究会や学会のセッションへの参加	→	●	●	●	●	●	●	●
指導教員からの指導の受けやすさ	→	●	●	●	●	●	●	●
他の人や社会の支援を頼み、受け入れること	→	●	●	●	●	●	●	●
子育てで得た知識・経験の授業や学生指導での活用	→	●	●	●	●	●	●	●
学生とのコミュニケーション能力の向上	→	●	●	●	●	●	●	●
現在の子どもたちや学校への理解	→	●	●	●	●	●	●	●
現在の教育・入試制度への理解	→	●	●	●	●	●	●	●
住んでいる地域に対する理解	→	●	●	●	●	●	●	●
住んでいる地域での人的ネットワークの広がり	→	●	●	●	●	●	●	●

該当しない
わからない
悪い影響が大きかった
やや悪い影響が大きかった
どちらでもない
やや良い影響が大きかった
良い影響が大きかった

-----<改ページ>-----

Q47 あなたの生涯における理想とする子どもの数についてお知らせください。

人

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

(Q45_1で『1.現在の子どもの数は：』 に何か入力されている
かつ

Q47で『1.』 に何か入力されている)

または

(Q45で『2.なし』 いずれかを選択した
かつ

Q47で『1.』 に [1] 以上 数値を入力した)方のみ

Q48 あなたの現在の子どもの数が前問で回答した数よりも少ない場合、その理由についてお知らせください。

※あなたの現在の子どもの数が理想とする子供の数と同じかそれより多い場合、次の設問に進んでください。

- ☐ 年齢が若いから
- ☐ 年齢が高くなったから
- ☐ 経済的理由
- ☐ 健康上の理由（不妊を含む）
- ☐ 職の安定性
- ☐ 育児とキャリア形成の両立
- ☐ 配偶者の育児への協力
- ☐ 職場の理解
- ☐ 子どもが育つ社会環境
- ☐ 配偶者（事実婚等のパートナーを含む）がいない

☐ その他 ()

-----<改ページ>-----

Q49 子どもを持つ時期に、子どもを持つことに躊躇したことはありますか。

- ☐ 該当しない
- ☐ 子どもを持つつもりはない／なかった
- ☐ 躊躇したことはない
- ☐ 躊躇したことはある

-----<改ページ>-----

【回答者条件】

Q49で『4.躊躇したことはある』 いずれかを選択した方のみ

Q49_1 躊躇したことがある方に伺います。その具体的な理由をお知らせください。

- ☐ 研究や仕事との両立が難しかった
- ☐ 雇用が不安定だった
- ☐ 経済的に不安があった
- ☐ 配偶者の協力が得られなかった
- ☐ その他 ()

-----<改ページ>-----

Q50 現在、ご家族（同居以外を含む）に看護や介護を必要とする人がいますか。

- ☐ 現在いる
- ☐ 以前はいたが現在はいない
- ☐ いない

-----<改ページ>-----

Q51 以下のような理由で休職・休業期間・無職になった期間がありますか。ある場合には、期間についてもお答えください。

		あ る	な い
介護	→	☐	☐
その他（結婚、傷病など）	→	☐	☐

-----<改ページ>-----

あった場合はどれくらいの期間でしたか。

介護

	年		か月
----------------------	---	----------------------	----

その他（結婚、傷病など）

	年		か月
----------------------	---	----------------------	----

-----<改ページ>-----

Q52 新型コロナ感染拡大によって研究環境に変化はありましたか。自由にお書きください。

-----<改ページ>-----

Q53 女性ならではの、あるいは男性ならではのといったような、性にまつわる身体的変化（加齢に伴うものなど）により研究活動が影響を受けたことがありますか。また、その場合にどのような支援があればよいと思いますか。自由にお書きください。

-----<改ページ>-----

Q54 人文社会科学分野における男女共同参画に関するご意見がありましたら、自由にお書きください。



----<改ページ>-----